暮らしのぞき箱

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

～第三〇八号～

寒露（かんろ）　十月八日

二夜の月

春は花、秋は月。さやけき月は、古来、日本人の心をとらえてきました。

旧暦八月十五日の「十五夜」と、旧暦九月十三日の「十三夜」、日本では「二夜（ふたよ）の月」といって、二度のお月見を楽しむ習慣があります。

九月十三日の「十五夜」は、伊勢神宮内宮の参集殿で神宮観月会がありました。このたび、長年、短歌と俳句の撰者を務めてきたお二人が勇退されました。短歌の岡野弘彦氏は昭和五十年から、俳句の鷹羽狩行氏は平成六年に山口誓子から引き継いだといいます。短歌は小島ゆかり氏に、俳句は誓子門の茨木和生氏に変わります。

秀歌の披講のあと、神宮楽師による管弦と舞楽が雅かに披露されました。

また、斎宮でも雅楽と舞が披露される観月会が開かれ、十五夜の晴れやかなお月見が行われました。

一方、一ヵ月後の十三夜は日本で独自に発達したもので、「後（のち）の月」「名残の月」と呼ばれます。秋も深まり、十五夜の華やかさはなく、むしろそこを楽しむといいます。

川音の町へ出づるや後の月　千代女

かじか煮る宿に泊りつ後の月　蕪村

江戸時代の俳句には、静かな夜の景が詠まれています。

十五夜が芋名月であるのに対して、豆や栗の収穫時期にあたることから、豆名月、栗名月とも呼ばれます。今年は十月十一日が十三夜。私は杉風荘でお月見講座をすることになりました。十三夜をしみじみと味わいたいと思います。

文　千種清美

伊勢内宮前
おかげ横丁

おかげの里便り

おかげ横丁

○ 恵みの市

10月15日より伊勢神宮にて執り行われる神嘗祭を奉祝し、秋の収穫を喜び神様に感謝する「恵みの市」を開催いたします。

と　き／10月12日(土)～20日(日) 10:00～17:00
ところ／おかげ横丁一帯

● 御食国の産物市

伊勢志摩を中心とする生産者のこだわりの産物を集めた市が立ちます。

ところ／赤福別店舗側塀沿い一帯

● 伊勢路の新米市

三重県産を中心とした新米を集めました。香り豊かで甘みの多い新米をお楽しみください。　※量り売りですので、少量からお求めいただけます。

ところ／おかげ横丁内「特設屋台」

五十鈴塾

○ 十三夜に集う～十三夜の月に浸る～

毎年恒例の杉風荘での、お月見講座。今年は千種先生をお招きして、お月見を楽しみます。旧暦9月13日の夜の月は、「十三夜」。旧暦8月の十五夜に次いで美しいとされ、「後の月」とも呼ばれ、2度目の月見を楽しみました。芋名月として里芋を供える「十五夜」に対して、「十三夜」は豆名月、栗名月として、月見の行事を行います。月見は収穫を祝う行事であるのです。令和の秋、新天皇陛下の即位礼と大嘗祭が行われます。とくに大嘗祭は、新天皇が神々に神饌を供えるという食にちなんだ儀式でもあります。収穫のお祭りと月、また十三夜を詠んだ詩歌、小説などをとりあげ、日本独自の風習「十三夜」と日本人についてお話しします。おはらい町通りにある郷土料理店「すし久」で月見膳をいただいたあと、五十鈴川河畔をそぞろ歩き、「杉風荘」でお抹茶とお月見にちなんだお菓子をいただきながら、千種先生のお話に浸り、お月見を楽しみましょう。

と　き／10月11日(金) 18:00～20:30
講　師／千種　清美（文筆家・皇學館大学非常勤講師）
参加料／一般6,300円 会員5,800円（食事代・茶菓代含む）
集合場所／18:00に「すし久」にお集まりください。
※お問い合わせ・お申込み　0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

名残月（なごりづき）　山芋と葛を合わせた生地で粒餡を包み、すすきの焼印を押して、名残月を表しました。

照葉（てりは）　粒餡を中に包んだ、練りきりの紅葉。この時季らしい風情とともに、夕秋への想いがひときわ高まります。

秋桜（こすもす）　浮島の生地に葛寒天と羊羹を重ねて、風の渡りに波打つ、コスモスの群れに似せました。